

うるおいとやすらぎの生活未来都市へ



白岡市長
こじま すぐる
小島 卓

平成24年10月1日、白岡市が誕生しました。

未来へつながるまちを目指して

前身の白岡町は、昭和29年に白岡駅を中心として、篠津村、日勝村および大山村（上大崎を除く）が合併して誕生しました。当時の人口は1万5000人余りであり、基幹産業は農業で米作のほか、梨の栽培も盛んで県内一の生産量を誇っておりました。その後、国の高度経済成長や複数の土地区画整理事業を積極的に行い優良な住宅地の供給に努めてきた結果、わが国の人口が減少に転じる中にありましても、着実に人口が増加してきました。こうした都市化が進展する中、一歩足を伸ばせば、まだまだ豊かな自然が残されております。

白岡市西部に位置する柴山沼は、県内で2番目の広さを誇り、休日になりますと多くの釣り客でにぎわっております。また、市内には29本の河川が流れ、市域5km四方に柴山伏越をはじめ川の立体交差が9カ所あり、全国的にも非常に珍しいものとされております。さらに、先日、江戸時代中期の学者として著名な新井白石の直筆の漢詩「贈北客」が発見されるなど、新たな歴史資源の発掘にも期待が寄せられています。

強みを最大限活用 魅力ある白岡に

私は、白岡市は、まだまだ多くの可能性を秘めていると考えております。首都圏中央連絡自動車道白岡葛蒲ICへのアクセスの良さやJR宇都宮線の2つの駅を有するなど、交通利便性が優れている一方、豊かな自然もまだまだ残されており、非常にバランスのとれた、懐の深い市であると自負しております。

こうした白岡市の持つ強み、特性を最大限活用し、これまでの発展の基盤を生かしながら、皆さまが白岡市に住んでみたい、住み続けたい、と言っていただけの魅力あるまちづくりを進めてまいります。これからは、市民一人ひとりが、白岡市の新しいまちづくりの主役です。ぜひ、



「白岡美人」の愛称で親しまれる名産の「梨」

自分たちの、私たちのふるさと「白岡市」に関心を持っていただき、白岡市の未来を共に描いていきましょう。本市の未来を担う子どもたちが、将来、私のふるさとを白岡市です、と胸を張って言える新生白岡市を築いていかなければなりません。そのためにも、引き続き白岡市のまちづくりの先頭に立って、白岡市のさらなる発展に誠心誠意取り組んでまいります。これからの白岡市の歩みにご期待ください。

新市プロフィール



- 人口 5万872人
- 世帯数 1万9092世帯
(平成24年10月1日現在)
- 面積 24.88km²
- 主要産業・特産品
製造業・梨
- 観光名所・旧跡
柴山沼、柴山伏越
- 行事・イベント
小久喜ささら獅子舞、白岡まつり